

重要なお知らせ

マントラM7のインテーク下面の変形に関して調査の結果、この現象に対する明瞭な理解を得ることができました。



ある特別な状況下において、飛行中においても下面のリーディングエッジ補強バテンがひっくり返った状態になったままになることがあります。これは立ち上げプロセスにおいてリーディングエッジ中央部に張力が不足していることにより発生します。翼端がセンター部分より先に膨らみ始めると下面センター付近の補強バテンがひっくり返り、空中に出てもそのままになることがあります。この状況は通常スパンのセンター付近のみが影響を受け、この状況になるかどうかはキャンピーの膨らみ方にのみ依存します。

このような状況は上手な立ち上げ方によって避けることができます。キャンピーを立ち上げる前に常にグライダーが良い形でセットアップされているかを確認します。風のある状況で立ち上げる場合にはセンター部分が翼端より高い位置で壁ができていることを確認します。無風状況では翼端よりセ

ンター部分が先に立ち上がるように、強調された扇形にセットします。立ち上げに際してはセンター部のAライザーを持つことをお勧めします—AR3ラインが取り付けられている外側のライザーを持つ必要はありません。風のコンディションあるいはあなたが用いる立ち上げ方法に関わらず、常にセンター部分が先に膨らむようにしてください。そうすればこの現象は起こりません。

もし、空中でバテンがひっくり返っていることに気づいたら心配することはありません;グライダーはノーマルにフライトします。我々のテストによれば安全にかかわる問題ではなく、グライダーは全く安全にフライトし、常に空中で直すことができます。直すには左右対称にブレークを短く衝撃的にはたいてください。この操作は潰れを回復させるための操作とは異なります。深くゆっくりとしたポンピングは効果がありません。むしろより短く、すどく強い操作でバテンはもとに戻ります。このようなブレーク操作をするにあたっては手を外側に押し出すようにするとセンター近辺のブレークが先に引かれるためセンター近辺のバテンを戻すのに最も効果的なテクニックとなります。この方法によりバテンが100%元に戻ることを確認しています。空中でバテンを直すことができなかったことは一度もありません。

バテンがひっくり返った状態で徹底的な飛行試験を実施しましたが、グライダーの挙動に重要な有害となる影響は経験しませんでした。ディープストールは影響を受けず、バテンが正しいかひっくり返っているかに関わらず、グライダーは同じ様にディープストールに入らず抜け出しました。潰れからの回復もまた影響を受けませんでした。

理論的にはバテンがひっくり返っていると性能にわずかながら影響があると思われるので、直すことが安全にできる状況(トーイングで発行している場合は、ラインを切り離れた後)になったらすぐに対処してください。しかしながらバテンがひっくり返った状態でもM7で普通にサーマルやリッジソアリングができ、アクティブにフライトすれば気流が強く乱れていても潰さずにフライトができます。

理解しやすい視覚的説明ビデオ(<https://vimeo.com/341192520>)をご覧ください。またもし何かご質問がありましたら、お気軽にオゾンチームパイロットにコンタクトしてください。